

北陸港湾ビジョン第1回委員会資料

いしかわの港湾（金沢港・七尾港）

金沢港クルーズターミナル



七尾港大田地区

令和2年6月25日
石川県港湾課

金沢港の概要

金沢港の特徴

- ・韓国、中国などを結ぶ国際定期コンテナ航路が就航(週8便)
- ・世界的建機メーカーであるコマツの金沢港進出(H19)を契機に、コンテナ貨物がさらに増加
- ・クルーズ船増加に対応するため「金沢港クルーズターミナル」を新設(R2)(金沢港機能強化整備)
- ・R2年で開港50周年を迎える



①大浜ふ頭

重量貨物

水深13m:400m
(水深12mで供用中)

産業機械・建設機械



大型PCTC船の寄港

②石油ふ頭

水深7m:6バース

ガolin等
石油製品



③御供田ふ頭

コンテナターミナル

水深10m:3バース

コンテナ、鋼材



⑤無量寺ふ頭

客船岸壁
耐震強化岸壁

水深10m:1バース



④戸水ふ頭

水深10m:2バース

建設機械、
セメント等

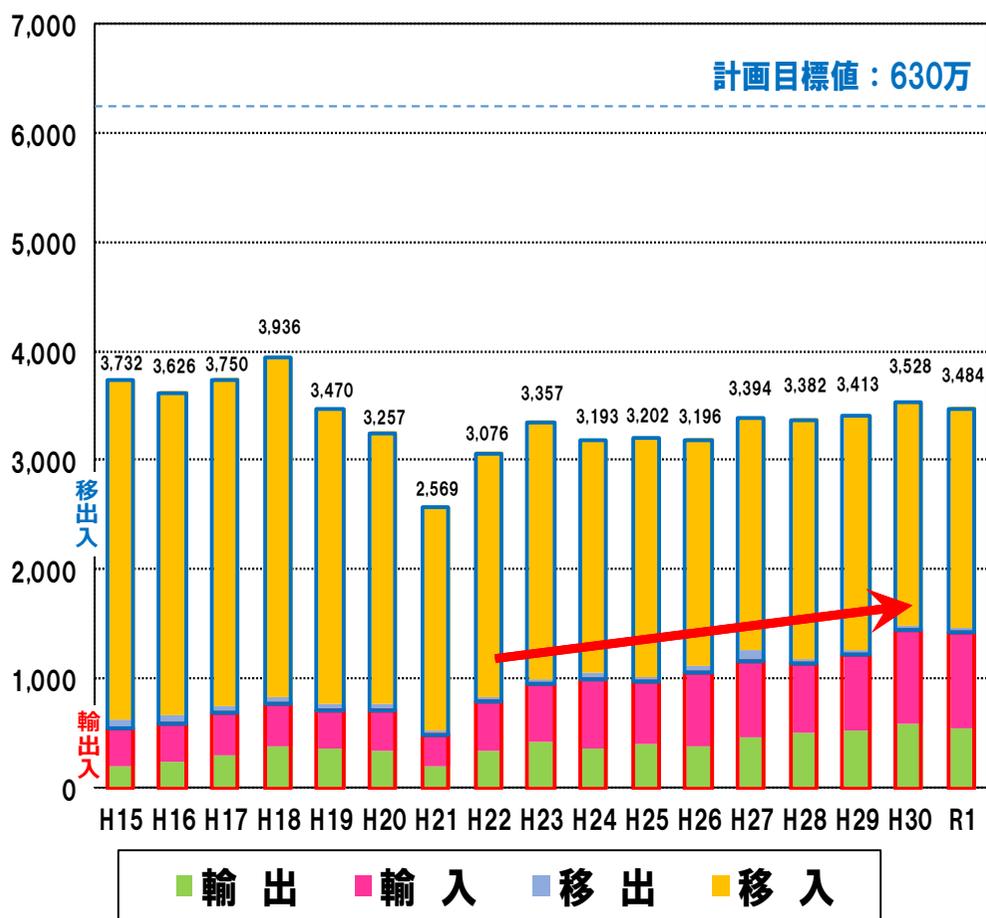


RORO船

金沢港の取扱貨物

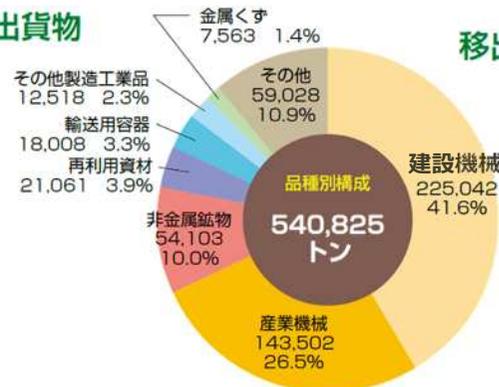
- ・総貨物量は年間300～400万tで推移しており、令和元年度は348万t
- ・主要貨物として、輸出では、建設機械、産業機械
 輸入では、糸及び紡績半製品、建設機械の部品
 移入では、ガソリンなどの石油製品やセメント

金沢港の貨物量の推移

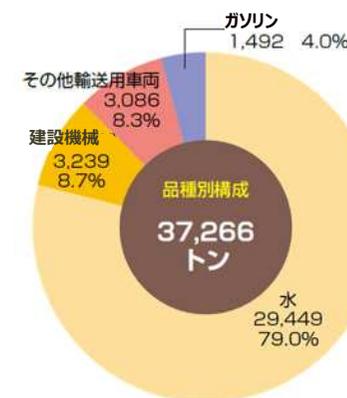


(千t) 品目毎の内訳(R1)

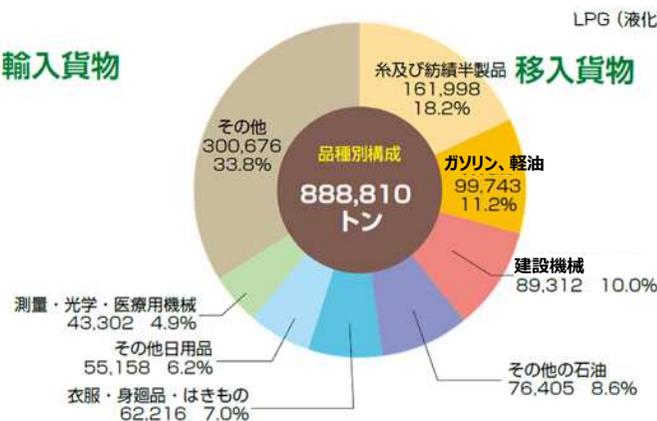
輸出貨物



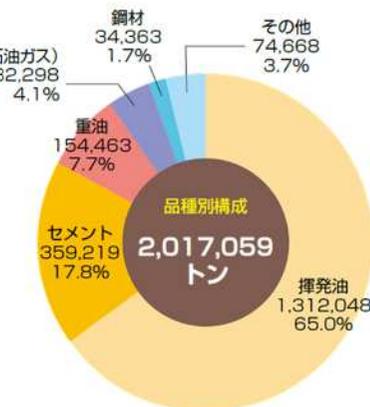
移出貨物



輸入貨物



移入貨物



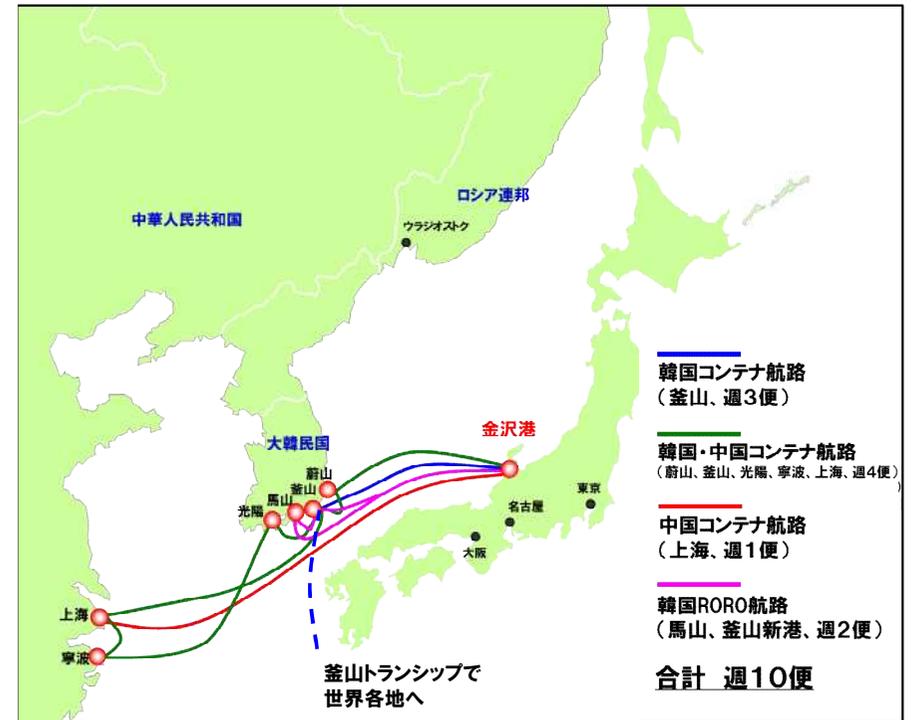
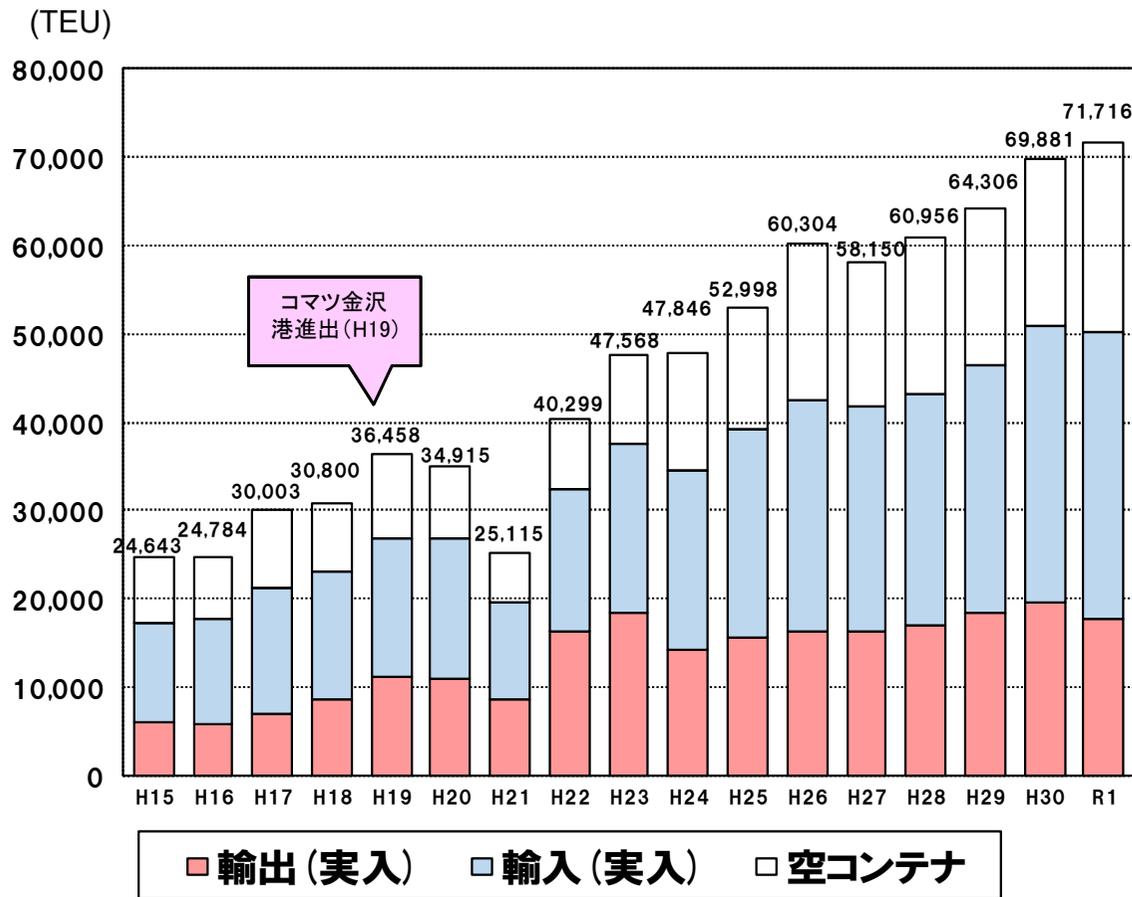
近年のコンテナ貨物の動向

■コンテナ貨物の増加

・4年連続過去最高を更新(71,716TEU:R1)

・定期航路数

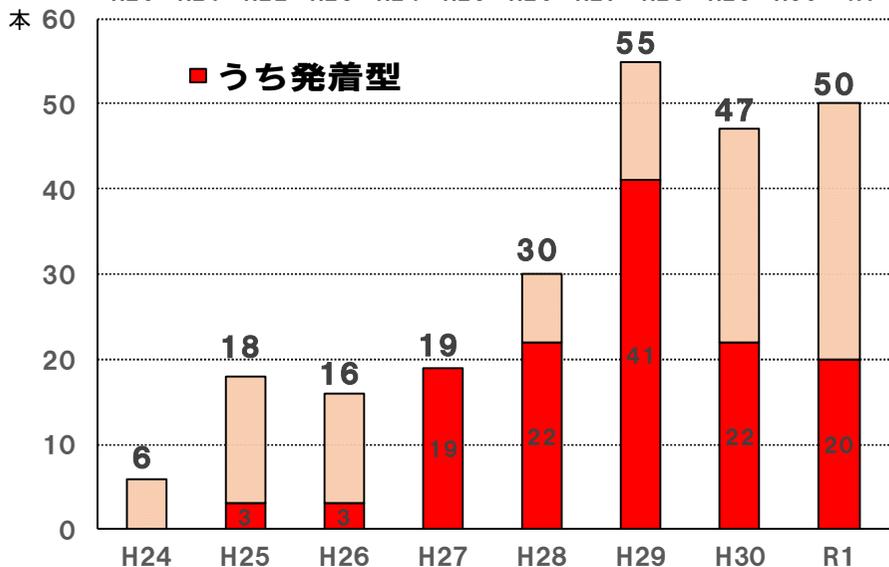
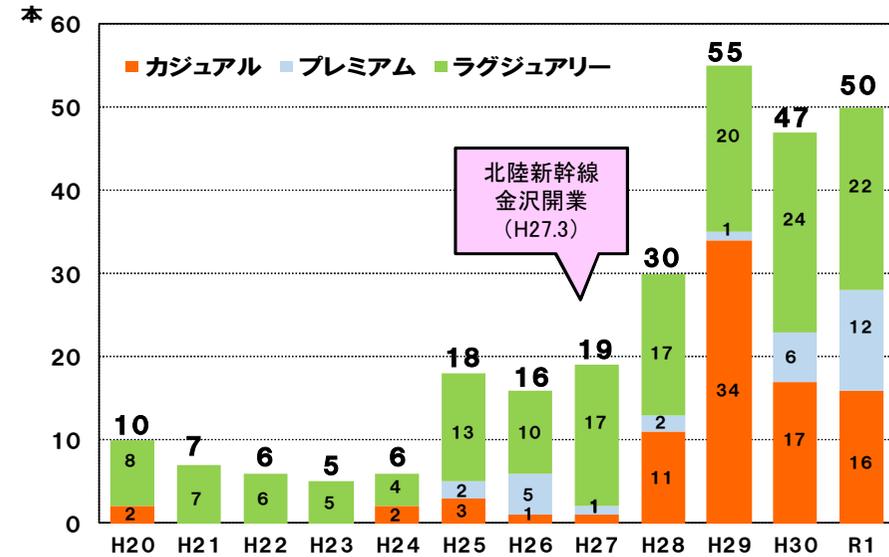
韓国航路が3便、韓国・中国航路が4便、中国航路が1便、韓国RORO航路が2便を含め、
現在週10便が運航している



近年のクルーズ船の動向

クルーズ船の急増

- ・北陸新幹線 (H27.3開業) と組み合わせた「レールアンドクルーズ」の取組などにより、寄港数が急増
- ・令和元年は50本が寄港
- ・ラグジュアリー船が多いこと、発着型のクルーズが多い
- ・H30.11 横浜市とクルーズ船誘致に関する連携協定



ラグジュアリー

クイーン・エリザベス (英)
(90,901トン、2,081人)



にっぽん丸 (日)
(22,472トン、398人)



シルバー・エクスプローラー
(モナコ)
(6,130トン、144人)



ばしふいっく びいなす (日)
(26,594トン、460人)



ル・ソレアル (仏)
(10,992トン、264人)



飛鳥II (日)
(50,142トン、872人)



プレミアム

ダイヤモンド・プリンセス (米)
(115,906トン、2,706人)



MSCスプレンドリダ (スイス)
(137,936トン、3,274人)



カジュアル

コスタ・ネオロマンチカ (伊)
(56,769トン、1,578人)
・日本海周遊クルーズ



オーシャンドリーム (日)
(35,265トン、1,422人)



金沢港機能強化整備（クルーズ・貨物の増加への対応）

■ 「コンテナ」「クルーズ」の増加により下記の問題が顕在化

- ・ 既存の旅客受入施設(みなと会館)が手狭で老朽化も進み、CIQ・待合施設を仮設テントで対応
- ・ 幹線道路から無量寺ふ頭へのアクセスが不便
- ・ コンテナ上屋がコンテナターミナル以外のエリア(無量寺、戸水ふ頭)に点在し、荷役の効率が悪い

金沢港機能強化整備事業(無量寺～御供田ふ頭)(H29～R1)



金沢港機能強化整備（新たな賑わいの創出）

クルーズターミナルの整備、駐車場、緑地の整備

金沢港クルーズターミナル



1F: CIQ、待合エリア
2F: 展望デッキ、レストラン、
セミナールーム
3F: 関連事務所



荷役作業の効率化

県営東部上屋: 2,997m²
金沢港運東部上屋: 4,500m²



コンテナターミナル隣接地へ上屋を移転・集約

夜間のライトアップ

金沢港クルーズターミナル



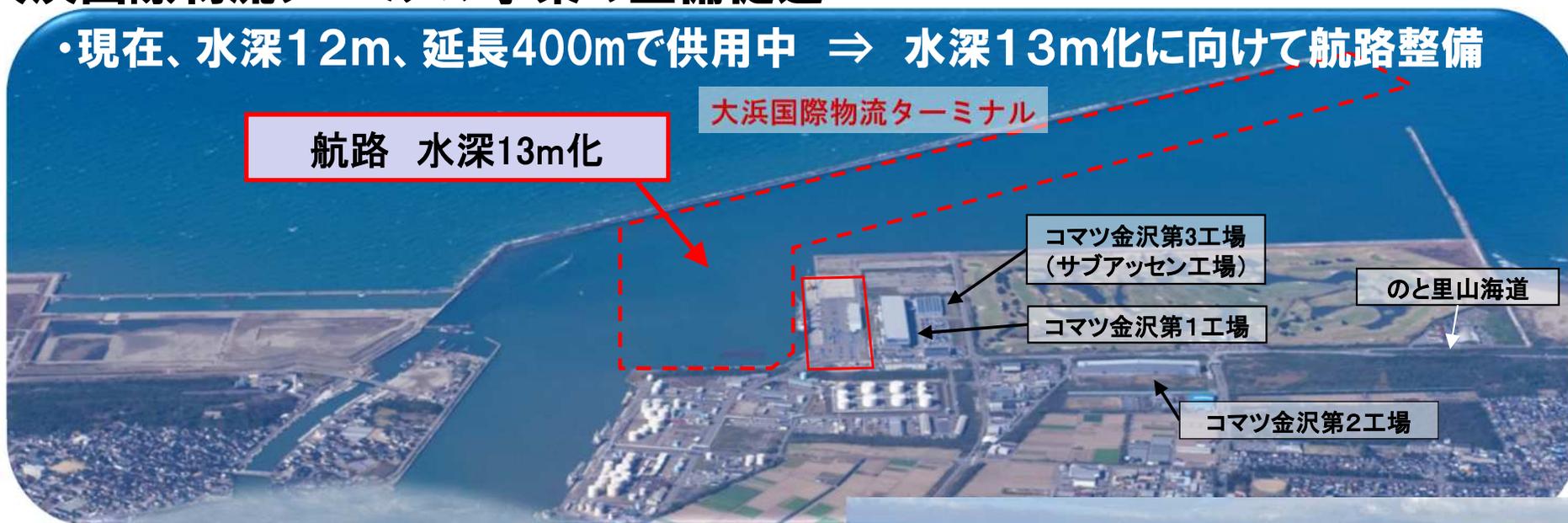
港内を取り囲むライトアップ(イメージ)



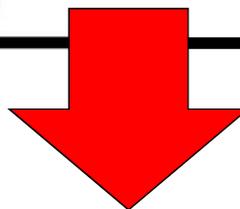
今後の金沢港における取組

大浜国際物流ターミナル事業の整備促進

・現在、水深12m、延長400mで供用中 ⇒ 水深13m化に向けて航路整備



金沢港クルーズターミナルを核とした 新たな賑わいの創出



金沢港のクルーズ・貨物両面での拠点港化を目指す

七尾港の概要

七尾港の特徴

- ・能登島を自然の防波堤として古くから栄えた天然の良港で、R元年度に開港120周年
- ・エネルギー基地及び木材加工基地として地域経済を支える

①七尾マリナーパーク(能登食祭市場)



②大田ふ頭

水深10~13m:4バース
(13mは11mで供用中)

原木、製材



七尾湾 全景

③七尾国家石油ガス備蓄基地
LPG(液化石油ガス)

④北陸電力七尾大田
火力発電所
石炭、再利用資材

⑤矢田新第一ふ頭
(耐震強化岸壁)

水深7.5m:1バース
クルーズ船

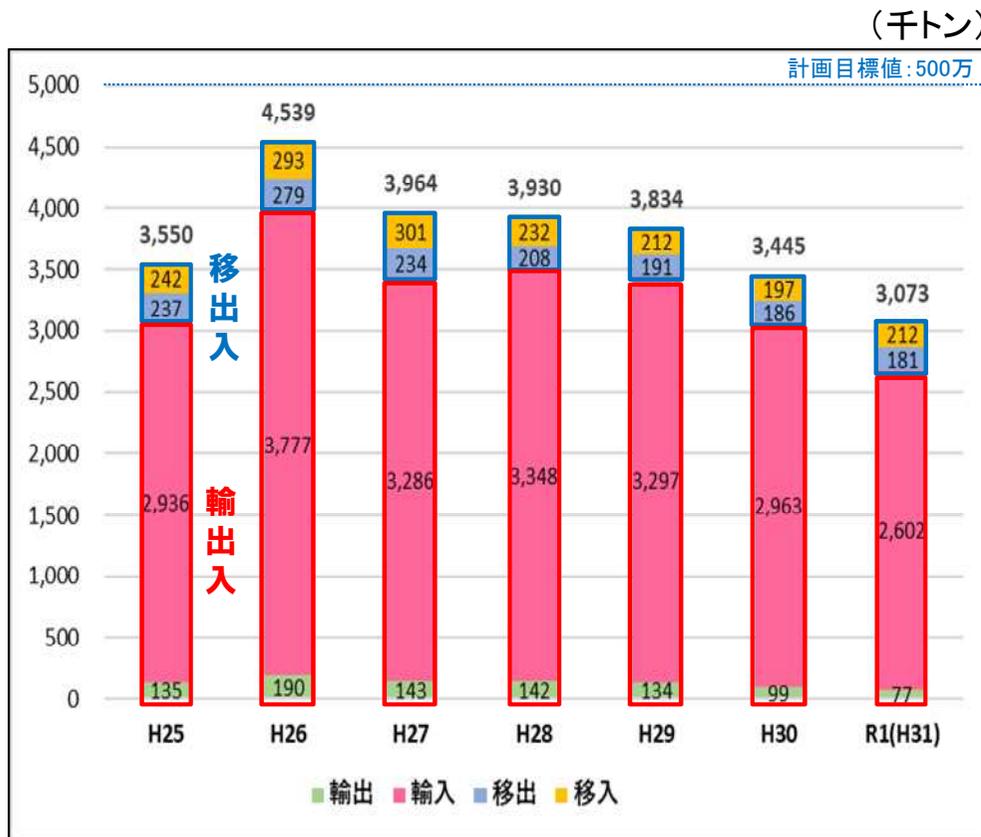


⑦住友専用岸壁(セメント)

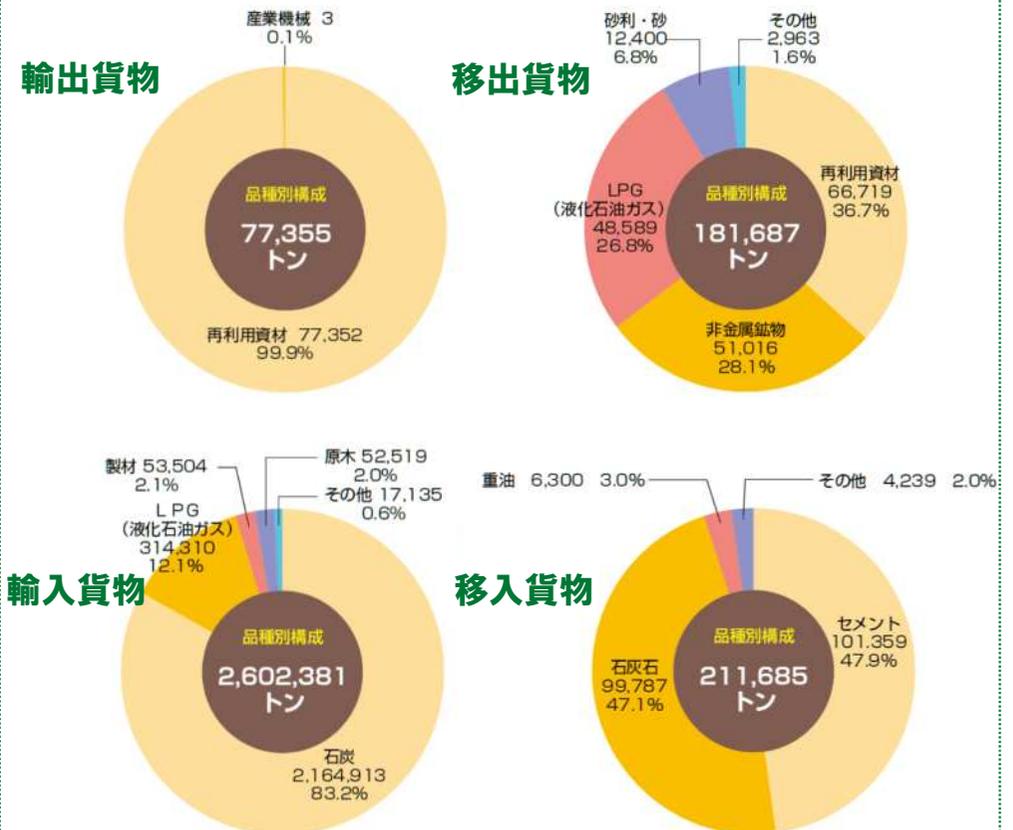
七尾港の取扱貨物

- ・総貨物量は年間300～400万tで推移しており、令和元年度は307万t
- ・主要貨物として、輸出では、再利用資材
輸入では、石炭、LPG、原木
移入では、セメント、石炭石

七尾港の貨物量の推移



品目毎の内訳(R1)



七尾港における賑わいの創出

■ 七尾マリパークの賑わい

能登食祭市場(七尾フィッシャーマンズワーフ)を中心としたマリパークは「みなとオアシス」および「道の駅」に登録されており、観光・交流の拠点として賑わっている

フィッシャーマンズワーフ
(能登食祭市場)



七尾マリパーク



七尾マリパークの賑わいイベント



青柏祭



能登ふるさと博



モンテレージャズフェスティバルイン能登

七尾マリパークは能登観光の拠点として、また、地域住民の憩いの場として賑わい、年間80万人が訪れている

七尾港における賑わいの創出

■耐震強化（旅客船）岸壁供用による交流機能の充実

- ・耐震強化機能を備えた旅客船岸壁（-7.5m）が供用（H27）
- ・隣接する七尾マリンパークと一体となった賑わいの創出



H27. 8月 日本丸入港



H28. 5月 ぱしふいっくびいなす入港



今後の七尾港における取り組み

■大田地区 国際物流ターミナルの促進

- ・現在、水深11m、延長260mで暫定供用中 ⇒ 水深13m化に向けて航路を整備

■臨海部防災拠点の整備

- ・大規模地震発生時の防災拠点となる矢田新地区防災緑地の整備
- ・平成27年度に供用した耐震強化(旅客船)岸壁と一体となり防災拠点として機能

